

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

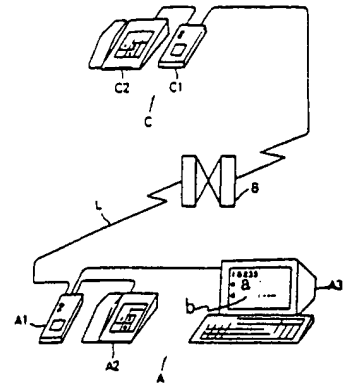
**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

## (54) CALLING SYSTEM

(11) 2-207645 (A) (43) 17.8.1990 (19) JP  
 (21) Appl. No. 64-28419 (22) 7.2.1989  
 (71) CASIO COMPUT CO LTD (72) KAZUHIRO OISHI  
 (51) Int. Cl. H04M1/276

**PURPOSE:** To call a prescribed communication equipment with one touch operation by setting the telephone number of the prescribed calling device to be preset to a transmitting means and the identification number of the calling device itself by using the arbitrary calling device.

**CONSTITUTION:** A calling device A set in a hired car company side is equipped with a transmitter A1, telephone set A2 and personal computer A3. The transmitter A1 receives the telephone number from a calling device C in a customer side, connects the number to the telephone set A2 and outputs the customer identification No to the personal computer A3. In the personal computer A3, data such as a customer name, address and route, etc., are stored by customers in correspondence to the ID No. When the ID No is inputted from the customer side, the data corresponding to the ID No are displayed. In a transmitter C1 in the customer side, the telephone number of the telephone set A2 in the hired car company side and the ID No of the transmitter C1 itself are preset and the telephone number of this telephone set A2 and the ID No of the transmitter itself are transmitted with one operation. Thus, the exclusive transmitter can be realized to call the prescribed calling device with one operation.



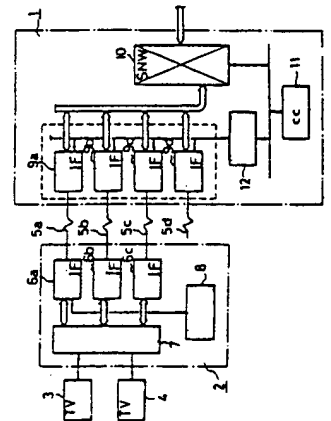
a: Taro Tsuchida (Chinese character), b: Tokyo-to (Chinese character)

## (54) WIDE BAND TERMINAL HOUSING SYSTEM

(11) 2-207646 (A) (43) 17.8.1990 (19) JP  
 (21) Appl. No. 64-27681 (22) 8.2.1989  
 (71) TOSHIBA CORP(1) (72) MASAJI KONNO(1)  
 (51) Int. Cl. H04M3/00

**PURPOSE:** To efficiently realize wide band service by respectively designating an information channel in a communication line and an information channel in the other communication line to a wide band terminal, which needs the plural information channels, by using one control channel in the plural communication lines and executing call setting.

**CONSTITUTION:** A wide band terminal 2 is connected through three communication lines out of communication lines 5a-5d, ... with basic speed access type (2B+D) channel structure, which is regulated by CCITT recommendation, to a digital exchange 1. A call control circuit 8 connected to a line interface 6a communicates the control information of the call setting for executing the communication of a picture signal respectively using the information channel (B) of the three communication lines 5a-5c with the digital exchange 1 through the control channel (D) of the communication line 5a. Thus, the wide band terminal can be housed by using plural basic interfaces and housing efficiency is improved. Then, the digital exchange system of high economicity can be realized.



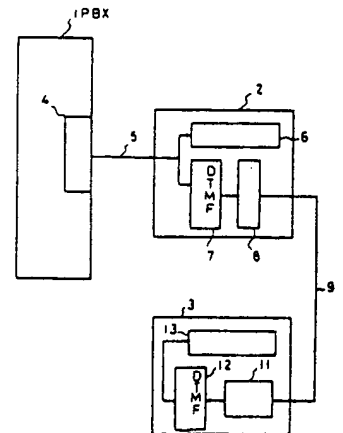
3: TV camera, 4: TV monitor, 7: picture cord, 6a-6c, 9a-9d: line IF, 12: signal processing circuit

## (54) FAULT DISPLAY SYSTEM FOR ELECTRONIC EQUIPMENT

(11) 2-207647 (A) (43) 17.8.1990 (19) JP  
 (21) Appl. No. 64-29119 (22) 8.2.1989  
 (71) TOSHIBA CORP (72) HIROAKI YAMASHITA  
 (51) Int. Cl. H04M3/10

**PURPOSE:** To set a display device distant from an electronic equipment, informing a fault of a maintenance staff, etc., without fail and to execute a speedy countermeasure by sending a correspondent DTMF signal based on a detected result to the fault of the electronic equipment and executing correspondent display based on the received DTMF signal.

**CONSTITUTION:** A fault decision part 4 executes the detection of service interruption, etc., and sends correspondent information and power supply to a display device 2. The display device 2 is set comparatively near a PBX 1 and a DTMF signal sending part 7 outputs the DTMF signal of a prescribed mixed frequency in correspondence to the fault information. A display device 3 is set in a place enough distant from the PBX 1 and a DTMF signal reception part 12 is equipped with discrimination function. Then, it is detected which two frequencies are coupled. After that, the correspondent output is given to a display part 13. Thus, the electronic equipment and display device can be arranged with a distance in between and thus, the fault can be informed of the maintenance staff without fail. Then, the speedy countermeasure can be executed.



6: display part, 8: transmission part, 11: reception part

資料3号

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-207645

⑬ Int. Cl.<sup>1</sup>  
H 04 M 1/276

識別記号 庁内整理番号  
7117-5K

⑭ 公開 平成2年(1990)8月17日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全1頁)

⑮ 発明の名称 通話システム

⑯ 特 願 平1-28419

⑰ 出 願 平1(1989)2月7日

⑱ 発 明 者 大 石 和 弘 東京都西多摩郡羽村町栄町3丁目2番1号 カシオ計算機株式会社羽村技術センター内

⑲ 出 願 人 カシオ計算機株式会社 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 町田 俊正

(A)10000640001



明 細 書

1. 発明の名称

通話システム

2. 特許請求の範囲

所定の通話装置の電話番号と自己の識別番号を予め記憶する記憶媒体を有し、ワンタッチ操作により、公衆回線を介して、上記記憶媒体内の電話番号を伝送して上記所定の通話装置をコールした後に当該通話装置に上記自己の識別番号を伝送する伝送手段を備える通話システムであって、

上記伝送手段は、

所定のモードの下で、上記公衆回線を介して伝送された上記所定通話装置の電話番号と自己の識別番号を上記記憶媒体に書き込む書き込み手段を備えたことを特徴とする通話システム。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、所定の通話装置に対して自己の識別番号をワンタッチで伝送する伝送手段を有する通話システムに関する。

〔発明の概要〕

この発明は、上記のような通話システムを構築する際、伝送手段にプリセットすべき上記所定の通話装置の電話番号と上記自己の識別番号を、任意の通話装置を用いてセットすることにより、簡単にシステムを構築できるようにしたものである。

〔従来の技術〕

従来、例えば、飲食店、個人等がハイヤーを依頼するときは、その都度、ハイヤー会社の電話番号を電話して電話をかけ、自己(顧客)の住所、返順等を伝えていた。

しかし、一々、ハイヤー会社の電話番号を確認したり、住所、返順等を伝えるのは、顧客にとって面倒であった。

そこで、顧客は、ダイヤルメモリ機能を有する

特開平2-207645(2)

電話機に、所定のフッシュボタンと対応させてハイヤー会社の電話番号をプリセットしておき、上記所定のフッシュボタンのワンタッチ操作でコールするようにしていた。

#### 〔発明が解決しようとする課題〕

しかし、上記の場合、ハイヤー会社側から見ると、ハイヤー会社の電話番号のプリセットが顧客側で自由に行われ、自社が選択されるとは限らない。

そこで、ハイヤー会社では、自社の電話機をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を顧客側に設置することにより、自社を専ら利用するよう仕向け、かつ、顧客がダイヤルメモリ機能を有する電話機を購入しなくてもよく、また、ダイヤルメモリ機能を有する電話機を既に購入済みであれば、顧客による電話番号のプリセットの手間を省き、顧客獲得、及び顧客へのサービス向上を図ることが考えられる。

この場合、ハイヤー会社の電話番号と、顧客を

識別して送順等を確定するために利用する顧客の識別番号を記憶させたROMを、上記伝送装置へ返込むことが考えられる。

しかし、ROMを活用した場合には、各ROMに書き込むべき識別番号は顧客ごとに異なるため、データ内容（識別番号）の異なるROMを顧客数分用意して、各々別々の伝送装置に返込む必要があり、システムの複雑が面倒であるとともに、コスト高となってしまう。

これは、顧客側に設置した伝送装置に、ハイヤー会社からのデータ伝送により自社の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできないことに起因するものと考えられる。

この発明の課題は、所定の通話装置をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を実現すると共に、この伝送装置に、コールされる側からのデータ伝送により自己の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできるようにすることである。

#### 〔課題を解決するための手段〕

この発明の手段は次の通りである。

この通信システムは、記憶媒体a1、及び番込手段a2を内蔵した複数の伝送手段aと、公衆回線とし、所定の通話装置bを備えている。

各伝送手段a内の記憶媒体a1（第1図の機能ブロック図を参照、以下同じ）は、所定の通話装置bの電話番号と自己の識別番号を予め記憶する。

伝送手段aは、ワンタッチ操作により、公衆回線を介して、記憶媒体a1内の電話番号を伝送して所定の通話装置bをコールした後に当該通話装置bに上記自己の識別番号を伝送する。

各伝送手段a内の番込手段a2は、所定のモードの下で、公衆回線を介して伝送された所定の通話装置bの電話番号と自己の識別番号を記憶媒体a1に番込む。

#### 〔作用〕

この発明の手段の作用は次の通りである。

今、例えば、ハイヤー会社が、飲食店、個人等の複数の顧客側に、その顧客側の通話装置と接続

する形で伝送手段aを設置し、この伝送手段aに自社の電話番号と、顧客識別番号をプリセットしたい場合、任意の通話装置（所定の通話装置でも良い）を用いて、顧客側に設置した伝送装置aに所定された通話装置をコールして回線を接続させ、所定モードに切替えさせて、自社の通話装置bの電話番号と顧客の識別番号を公衆回線を介して伝送する。

そうすると、顧客側に設置された伝送手段aの番込手段a2は、公衆回線を介してハイヤー会社側から伝送されたハイヤー会社の通話装置bの電話番号と自己の識別番号を記憶媒体a1に番込む。

このような番込みが行われた後に、顧客側がハイヤー会社側にハイヤーを依頼するときは、例えば、伝送装置の所定キーをワンタッチ操作するだけで、番込まれたハイヤー会社の通話装置bの電話番号と自己の識別番号が伝送される。そして、伝送された電話番号によりハイヤー会社の通話装置bがコールされる。

特開平2-207645(3)

従って、所定の通話装置をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を実現すると共に、この伝送装置に、コールされる側からのデータ伝送により自己の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできる

【実施例】

以下、一実施例を第2図ないし第6図を参照しながら説明する。

第2図は、通話システムのシステム構成図であり、ハイヤー会社側に設置された通話装置Aと、公共回線交換機Bと、顧客別に設置された通話装置Cとが公共回線により接続されている。なお、第2図では、顧客別の通話装置Cは1顧客分のみを図示しているが、実際には、顧客別に複数台設置されている。

ハイヤー会社側に設置された通話装置Aは、伝送装置A1、電話機A2、パソコンA3を有している。

伝送装置A1は、顧客側の通話装置Cからの電

ットされ、この電話機A2の電話番号と、自己のID番号をワンタッチ操作により伝送する。

ハイヤー会社側の伝送装置A1と顧客側の伝送装置C1とは、同様の構成であり、第3図に示すように、制御部1、CPU2、EEPROM3、PB受信部4、PB発信部5、DP発信部6、発信中LED7、話し中LED8、発信キーK1、データセットキーK2、バッファBu、PB/DP設定スイッチSWを有している。

制御部1は、公共回線交換機Bを駆動して電話番号を送出し、自己と相手方との間で公共回線しを監視する、データの送受信を行う等の制御を行う。

顧客側の伝送装置C1のCPU2は、データセットキーK2によりデータセットモードが設定されているときに、ハイヤー会社側の電話機A2の電話番号と、自己のID番号を受信すると、それらをバッファBuに一旦格納し、所定の区切コードを検出することにより、EEPROM3に格納する。また、顧客側のCPU2は、発信キーK1が

電話番号を受信して電話機A2に接続すると共に、顧客側の通話装置Cからの顧客識別番号（以下、ID番号と呼ぶ）をパソコンA3に出力する。

電話機A2は、伝送装置A1からの電話番号に基づいてコール音を発音し、そのコール音により送受話器A2が取り上げられると、顧客側の通話装置Cとの間での通話が可能となる。

パソコンA3には、ID番号と対応して顧客名、住所、通順等のデータが顧客別に記憶されており、伝送装置A1を介して顧客側からのID番号が入力されると、表示画面に示したように、そのID番号に対応した顧客名、住所、通順等を表示する。従って、この表示画面を見ることにより、電話機A2では、顧客名、住所、通順等を尋ねる必要はなく、何台のハイヤーを差し向ければ良いか等のみを尋ねれば良い。

顧客側の通話装置Cは、伝送装置C1、電話機C2を有している。

顧客側の伝送装置C1には、ハイヤー会社側の電話機A2の電話番号と、自己のID番号がプリセ

ットされると、顧客側のEEPROM3に格納された上記電話番号と自己のID番号を、制御部1を介して発信する。さらに、顧客側のCPU2は、電話番号を発信しているときは発信中LED6を点灯し、相手が話し中であるときは話し中LED7を点灯する。

PB受信部4、PB発信部5は、高低2周波のプッシュボタン信号（PB信号）に対応するもので、ハイヤー会社からのPB信号によるプリセットデータ（電話番号とID番号）は、PB受信部4により受信され、コードデータに変換されてCPU2に出力される。また、PB発信部5は、CPU2からのコード形式の電話番号等を、高低2周波のPB信号に変換して発信する。

DP発信部6は、CPU2からのコード形式の電話番号等を、ダイヤルパルス信号（DP信号）に変換して発信する。

PB/DP設定スイッチSWは、加入時に選択された外付交換機B1のタイプが、プッシュボタン用であればPB側に固定的にセットし、ダイヤ

特開平2-207645(4)

ルバル用であればD P側に固定的にセットしておく。そして、P B側に固定的にセットした場合は、P B発信部5を介してデータ発信が行われ、D P側にセットした場合は、D P発信部6を介してデータ発信が行われる。

次に、第4図ないし第6図を参照しながら実施例の動作を説明する。

ハイヤー会社側から自社の電話機A 2の電話番号と、顧客のID 00をプリセットするときは、第4図に示したように、公衆回線Lに接続された顧客側の伝送装置C 1に音声周波数を用いて直接プリセットするため、ファッシュボタン式の電話機A 2を用いる。なお、ファッシュボタン式であれば、任意の電話機A 2でも良い。

まず、ファッシュボタン式の任意の電話機A 2により、顧客側の電話機C 2をコールして回線を接続させ、これから上記プリセットを行う旨を伝えて、データセットキーK 2をオンさせてデータセットモードを設定させる。そして、ファッシュボタンにより、自社の電話機A 2の電話番号、顧客

のID 00、チェックディジットをファッシュボタンにより順次入力する。この際、#ボタンにより上記各種データ区切って入力する。

次に、顧客側のプリセット処理を第5図を参照しながら説明する。

顧客側の伝送装置C 1のCPU 2は、発信キーK 1のオン/オフを判断し(ステップS 1)、発信キーK 1がオンであれば、所定の発信処理を実行して(ステップS 2)、ステップS 1に戻る。

一方、発信キーK 1がオフであれば、データセットキーK 2の操作のオン/オフを判断し(ステップS 3)、オフであればステップS 1に戻る。

一方、データセットキーK 2がオンでありデータセットモードが設定されておれば、ハイヤー会社側から伝送されたプリセット用データを順次バッファB uに格納し(ステップS 4)、#ボタン対応の#コード(区切コード)をバッファB uに格納(受信)したか否かを判断する(ステップS 5)。その結果、#コードを受信していないときは、ステップS 4に戻って受信データのバッファ

B uへの格納処理を継続する。

一方、#コードを受信したときは、バッファB u内の#コードより前のデータ、すなわち、ハイヤー会社の電話番号をEEPROM 3に書き込み、バッファB u内のデータをクリアする(ステップS 6)。

そして、更に、伝送されたプリセット用データを順次バッファB uに格納し(ステップS 7)、#コードをバッファB uに格納(受信)したか否かを判断する(ステップS 8)。その結果、#コードを受信していないときは、ステップS 7に戻って受信データのバッファB uへの格納処理を継続する。

一方、#コードを受信したときは、バッファB u内の#コードより前のデータ、すなわち、自己のID 00をEEPROM 3に書き込み、バッファB u内のデータをクリアする(ステップS 9)。そして、次に伝送されたチェックディジット、及び#コードをバッファB uに格納し、#コードを格納することによりデータ受信終了を認識して、

チェックディジットに基づいて、EEPROM 3に書き込んだ電話番号、ID 00の伝送エラーをチェックする(ステップS 10)。その結果、正常であれば、そのままステップS 1に戻り、伝送エラーが生じておれば、着し中LED 7を点灯してその旨を通知して(ステップS 12)、ステップS 1に戻る。なお、着し中LED 7が点灯され、伝送エラーの発生が通知されたときは、電話機C 2により、再送信を要求すれば良い。

このように、顧客側に設置された伝送装置C 1には、ハイヤー会社側の任意の電話機から送信された電話番号、ID 00がプリセットされる。次に、顧客側の伝送装置C 1により、ハイヤー会社の電話機A 2をコールする処理を第6図を参照しながら説明する。

伝送装置C 1に接続された電話機C 2の送受回路C 2 aをフックオフして(ステップS 21)、アンケートーンが無ければ送受回路C 2 aをフックオンして(ステップS 22、S 23)、ステップS 21に戻り、再度、フックオフする。アンケ

特開平2-207645(5)

ートーンが有れば、伝送装置C1の発信キーK1を操作する(ステップS24)。

そうすると、伝送装置C1のCPU2は、発信中LED7を点灯し、話し中LED8を消灯する(ステップS25)。次に、EEPROM3にプリセットされたハイヤー会社の電話番号を读出して、PB発信部5、或いはDP発信部6にてデータ変換させて、制御部1を介して送信させることにより自動ダイヤリングさせる(ステップS26)。そして、相手(ハイヤー会社)が話し中か否かを判断し(ステップS27)、話し中でなければ、EEPROM3にプリセットされたIDを读出して、PB発信部5、或いはDP発信部6にてデータ変換させて、制御部1を介して送信させる(ステップS28)。そして、発信中LED7、及び話し中LED8を消灯する(ステップS29)。そして、ハイヤーの台数等を送受部C2を介して告げて(ステップS30)、送受部C2をフックオンして(ステップS31)、終了する。

解除し(ステップS37)、ステップS31に進む。

このように、ハイヤー会社側から、ハイヤー会社の電話番号と、自己のIDがプリセットされた後は、発信キーK1をワンタッチ操作するだけで、ハイヤー会社の電話番号と、自己のIDを送信することができる。

なお、この発明は、上述の実施例に限定されることなく、例えば、伝送装置を電話機と直接接続せず、単独で設置することも可能である。

#### 【発明の効果】

この発明によれば、所定の通信装置をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を実現でき、かつ、この伝送装置に、コールされる側からのデータ伝送により自己の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできる。従って、顧客(伝送装置が設置される側)にとっては、ワンタッチでコールするために、ダイヤルメモリ機能を有する電話機を挿入したり、電話番号のプリセットを行う必要

ステップS27にて、相手が話し中であると判断されたときは、ステップS32に進んで、自動ダイヤリングを3回行なったか否かを判断する。その結果、3回行っていないときは、発信中LED7を消灯し、話し中LED8を点灯する(ステップS33)。そして、フックオフ中か否かを判断し(ステップS34)。フックオフ中、すなわち、送受部C2が取上げられているときは、前回の自動ダイヤリングから20秒経過したか否かを判断する(ステップS35)。その結果、20秒経過したときは、ステップS25に戻るにより、再度、自動ダイヤリングする。

20秒経過していないときは、ステップS34に戻って、フックオフ中か否かを判断する。

このステップS34にて、フックオンであり、送受部C2がフックされたと判断されたときは、発信中LED7、及び話し中LED8を消灯して(ステップS36)、終了する。

ステップS32にて、自動ダイヤリングを、既に3回行なったと判断されたときは、図3状態を

がなくなり、経費削減を図り、手間を省くことができる。一方、ハイヤー会社(上記所定の通信装置の所有者：コールされる側)にとっては、自社の電話機をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を顧客側に設置することにより、自社を専ら利用するよう仕向け、顧客獲得を図ることができ、かつ、自社側からのデータ伝送によって自社の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできるので、データ内容(ID)の異なるROMを複数作製する必要がなくなり、設置の際の手間が省ける。しかも、ハイヤー会社では上記識別番号により顧客を特定でき、例えば、予め用意した識別番号の資料などに基いて運用などを確認できるので、顧客に運用などを尋ねなくても済み、時間の節約および顧客に対するサービスの向上が図れる。

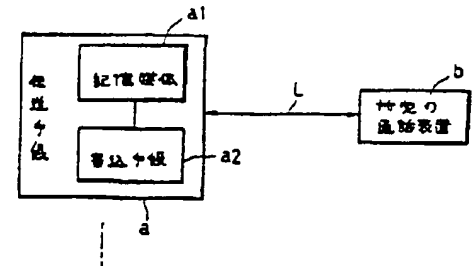
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の機能ブロック図、第2図は実施例のシステム構成図、第3図は伝送装置のブ

特開平2-207645(6)

ロック構成図、第4図はデータプリセット時のシステム構成図、第5図はデータプリセット時の伝送装置の動作を示すフローチャート、第6図はデータ送信時の伝送装置の動作を示すフローチャートである。

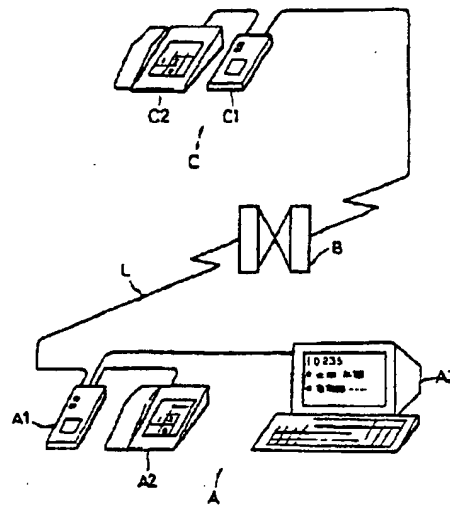
2...CPU、3...EEPROM、A2...電話機  
A2a...電話機、C1...伝送装置、K1...発信キー、  
K2...データセットキー。



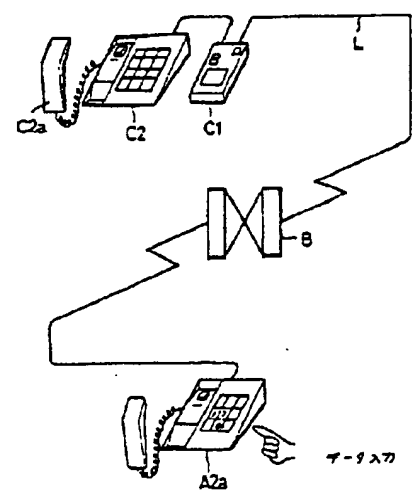
特許出願人 カシオ計算機株式会社

第 1 図

代理人 町 田 俊 正  
印 記 印 後 立



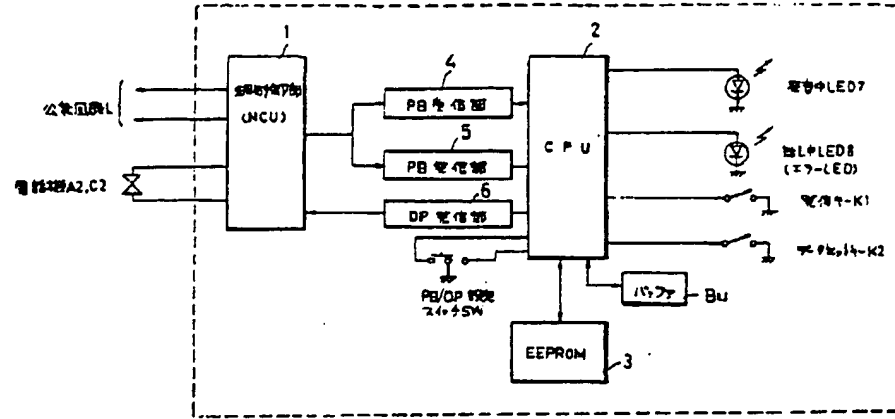
第 2 図



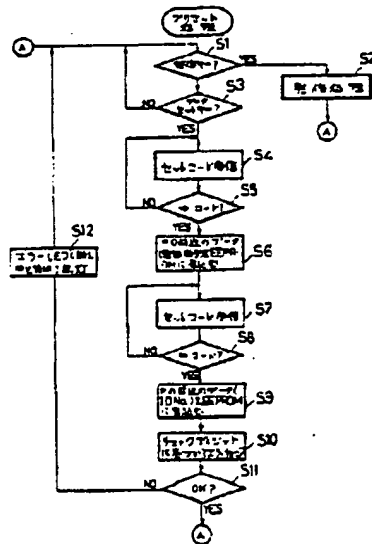
第 4 図



特開平2-207645(7)



第 3 図



第 5 図

特開平2-207645(8)

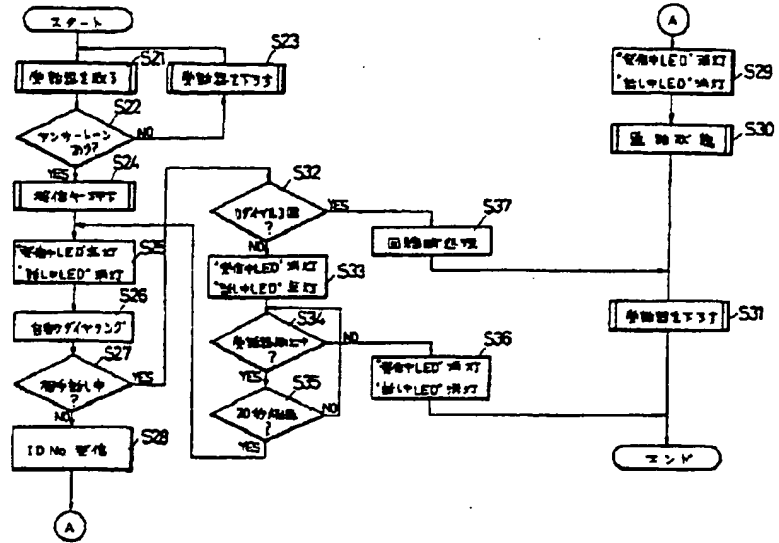


図 6

特開平2-207645

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第7部門第3区分  
【発行日】平成9年(1997)1月17日

【公開番号】特開平2-207645  
【公開日】平成2年(1990)8月17日  
【年通号数】公開特許公報2-2077  
【出願番号】特願平1-28419  
【国際特許分類第6版】

HO4M 1/276  
【F1】  
HO4M 1/276 7190-5G

# 手続補正書

平成9年2月7日

特許庁長官 関川 新一 殿

1. 事件の表示  
平成11年特許第28419号
2. 発明の名称  
無線装置
3. 補正をする者  
事件との関係 特許出願人  
住所 東京都港区新橋三丁目9番1号  
名称 (144) カシオ計算機株式会社  
代表者 梶 尾 昌 雄
4. 代理人  
住所 東京都港区新橋1丁目13番4号  
〒8ビル3階  
電話 03(3581)8288  
氏名 伊藤士(7495) 伊 藤 氏
5. 補正の理由  
発明の名称、明細書及び図面。

## 補正の内容

- (1) 発明の名称を「無線装置」に補正する。
- (2) 明細書の「特許請求の範囲」の記載を明細書の通り補正する。
- (3) 明細書の図1を例4及び5に変更し図1を削除する。
- (4) 明細書の第4頁第14行2文字を「図1」を「図5」に下記の通り補正する。

図

この発明の問題は、電子式の無線装置をワンタッチ操作でコールして接続でき、また、相手側の通信状態の電報信号と自己の識別番号とを自動的にプリアセットできるようにすることである。

【補正を請求するための手段】

この発明の目的は次の通りである。

発信手側は、上記相手側の通信装置から無線装置を介して接続された識別番号を登録する。

受信手側は、上記発信手側で登録された上記識別番号と自己の無線装置の電報番号と対比づけて接続する。

発信手側が、上記受信手側に登録された電報番号を読み出して、この読み出した電報番号により上記無線装置を介して上記相手側の通信装置をコールして接続し、この際、上記読み出した電報番号と対比して登録されていた上記識別番号を上記相手側の通信装置へ伝送する。

【 附 註 】

この角田の手紙の年月は次の通りである。

手平指の成程位置と息が肺裡を介して耳鼓に到る迄の距離であつて、右図が手平の油氣管等から肺平手平を介して位置されたと認めざるが生理學的事によつて變遷せられると、その位置が上と位置する場合は上図の手平の位置の眞實の位置等と異なつて居るが肺平に位置する場合は、また、肺平即ち耳平によつて、上図が肺平に位置された位置等が眞實なるもので、この間にも上図の位置等により上図の位置等を介して上図手平の位置の眞實が正確なものと認められ、この後、上図に位置されたと位置等とに別れて位置されてゐたと上図別手平と上図手平の位置の眞實を認められる。

因って、用千九の姉妹結婚をアンタッチ操作でコールして婚  
 約することであり、また、相手側の通信費等の費用等々も自己  
 の所有金等々を目的的にプリセットすることである。

《8》明細書の第7頁第7行目の「第2期ないし第3期」を「第1期ないし第2期」と修正する。

(4) 昭和四年七月九日付の「第1回」及「第2回」と同じである。

(1) 明倫彙編丁亥例 3 行註的「第 3 圖」を「第 1 圖」に修正した。

(1) 明細の心部も同第4行目の「第3回」を「第2回」と修正する。

手紙が送れる。しかも、ハイカー会館では電話番号により旅費を決定でき、例えば、手紙用意した旅行者等と対応する資料に基づいて旅費等も決定できるので、旅行者に利用などを勧めようとする。映画は旅費および旅行者に対するサービスの向上とされる。

(14) 明治館の第18回第17行は乃第18回館も亦日に「も、館前の第2回館明一である。」とあるのを下記の通り修正する。

**E**

#### 4. 目的の電卓と説明

図1図はこの発明の実施例のシステム構成図、図2図は記憶装置のプロット構成図、図3図はデータフロッピーディスクのシステム構成図、図4図はデータフロッピーディスクの記憶装置の動作を示すフローチャート、図5図はデータ送信時の記憶装置の動作を示すフローチャートである。

( 2 5 ) 正確土部で別紙の通り修正する。

(9) 町議会の第11回定例会の「第4回ないし第6回」を「第3回ないし第5回」と勘定する。

(10) 明細表の第11頁第9行目～第13行目の「第4項」を「第3項」と修正する。

(11) 四角形の第12頁の4行目の「第5組」を「第4組」と修正する。

(12) 昭和20年4月24日発行の「第5期」を「第6期」と改題する。

(12) 明細書の第17頁第1行目乃至第18頁第16行目を下記のとおり修正する。

【 我們也知道！ 】

二の例題によれば、与本の題意把握の容易さと与本の  
 足場面から選定されてきた題意等とを自動的にプリアセット  
 することである。また、プリアセットした題意等の選定結果  
 の容易さと選定等とを同時に与本の題意把握をワンタッチ  
 操作でフォローして選定することである。従って、題意把握  
 等のプリアセットを行なう必要がなくなり、本を早く読むこ  
 とができる。一方ハイパー本にとっては、目次の題意把握をワン  
 タッチ操作でフォローして選定できる為の題意把握等選定機  
 に換えることにより、目次等をも利用するよう仕向け、かつ  
 目次面からのデータ転送によって目次の題意等と同時選定  
 等のプリアセットをプリアセットできるので、プリアセットする側

實業管理委員會

●日本銀行の貸付制限と為替相場を介して輸出を助ける通貨政策

上野園子館の及前庭園から遠く園地を介して延びたれた園地  
所を、受領する事になりと。

この受取手控で支払された。上記取戻金受取と記帳手帳の裏  
面裏の裏面裏とあるついでに取戻手控と記帳手帳に、

よ反動勢力が反動勢力を反動勢力として、この場合  
反動勢力が反動勢力により反動勢力を介してよ反動勢力の反動  
勢力をこのように反動勢力として、よ反動勢力の反動勢力  
に反動勢力を反動勢力としてよ反動勢力の反動勢力  
よ反動勢力の反動勢力として、よ反動勢力の反動勢力

金貨とたに金を何錠とするは任意なり。

特開平2-207645

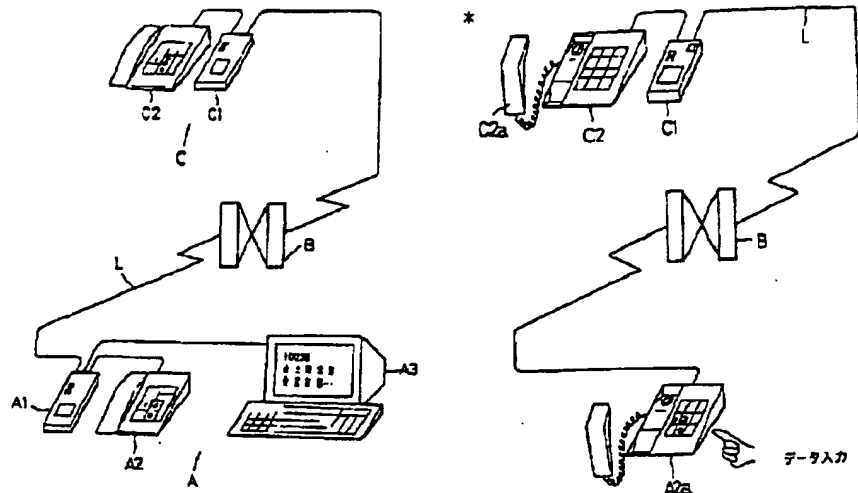


図1

図3

\*

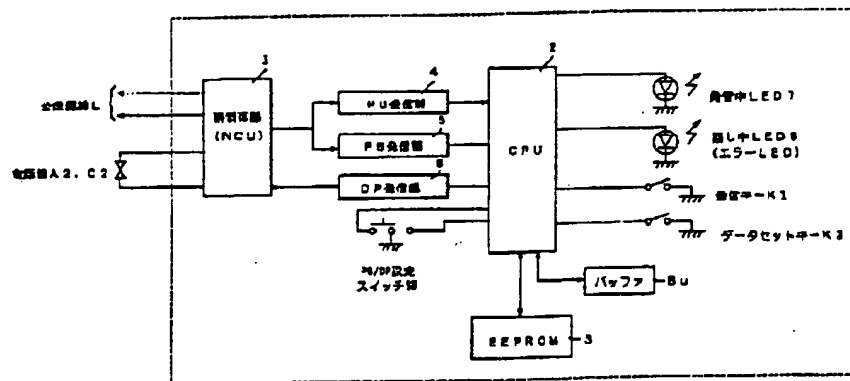


図2

